

文部科学省指定

「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」

〔調査研究Ⅰ〕 魅力ある学校統合事例の創出（3年次）

1町1中学における地域との連携の在り方と

小中連携に係る効果的なコミュニティ・スクールの導入についての研究

九重町教育委員会

## 目 次

I	調査研究のねらい	1
II	研究課題及び具体的な目標	2
III	調査研究計画	3
IV	具体的な実践内容	4
	<b>研究課題 1</b>	
1	このえ緑陽中学校運営協議会の取組の推進	4
(1)	学校運営協議会の取組	4
	◆出身小学校でのあいさつ運動（令和元年度新規）	5
	◆九重ふるさと祭りでのボランティア活動（平成29年から継続）	5
2	このえ緑陽中コミュニティ・スクールに関する意識調査	6
	<b>研究課題 2</b>	
1	このえ小学校学校運営協議会の設置	9
(1)	学校と地域の協働に係る教育委員・管理職等研修会	9
(2)	小中学校運営協議会委員とまちづくり協議会代表の熟議	11
(3)	「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム 鹿児島会場への参加	13
(4)	6小学校合同で学校運営協議会	14
	このえ小学校運営協議会の運営について（方針及び活動計画）	
2	各小学校における学校運営会議の充実	17
3	公民館主事参加によるこのえ学・地域教材に係わる研究主任会の実施	19
4	このえ学園基本計画における小小、小中、幼小、 保護者・地域との連携の在り方	20
V	実践研究のまとめ	22
(1)	このえ学園運営協議会の設置に向けて	22
	①このえ学園運営協議会設置に向けて	22
	②このえ学園運営協議会イメージ図	23
	別紙資料集	24
	フォトニュース（6回分）	

## I 調査研究のねらい

九重町においては、昭和の旧町村合併にともない4つの地区に4中学校が存在していた。小中学校、幼稚園、保育園、公立公民館もそれぞれ4地区に設置していた。平成24年まではそれぞれの地区を中心に連携しながら地域に根ざした教育をおこなってきた。

平成25年度に中学校を統合し1中学校、3地区の幼稚園と保育園を統合し1つの施設一体型の幼保連携型認定こども園を設置した結果、次のような新たな課題が生じてきた。

- (1) 中学校における「地域」の捉えが曖昧になった。(町全体が地域になった)
- (2) それぞれの地区との交流が難しい。(1校対4地区になり学校の負担が大きい)
- (3) 地域から中学生との交流が希薄になったという意見がある。
- (4) 小中、幼小の交流や連携ができなくなった。

以上の課題を解決するために、平成27年に「こども園・小学校・中学校・社会教育を中心に保護者・地域住民・各種団体が連携したコミュニティの創造」を目指して「このえ学園基本計画」を策定した。また、平成28年に中学校に学校運営協議会を設置した。小学校についてはすべてが小規模校で委員の人材不足、報酬などの課題もあり導入については、時間をかけて協議をしていくこととした。

中学校においては、平成28年度にコミュニティ・スクール導入促進事業の指定を受け、「このえのまちづくりに貢献できるコミュニティ・スクール」をテーマとし取組を進めてきた。学校運営協議会において保護者との連携などはスムーズに進んでいるが、地域との連携においては次のような課題がはっきりしてきた。

- (1) 地域との連携をおこなう場合は、どこを窓口として協議をしていくか。
- (2) 中学生と地域の関わりをおこなうときに、これまでイベントに参加することを主とした関わりに終わり地域や町づくりに貢献できていない。町づくりに貢献するための方法はどうあればよいか。

また、小学校へのコミュニティ・スクールの導入については、次のように考えている。

これまで、九重町の教育関係施設を1つの学園と捉え、すべての連携はもとより保護者・地域が一体となって教育を推進することを目的とした「このえ学園基本計画」を推進してきた。その取組において特に小中・小小連携をおこなってきた経緯をふまえ、1中学校6小学校全体でコミュニティ・スクールの導入するにはどういった方法が最適であるか実践的に研究に取り組んだ。

## Ⅱ 研究課題及び具体的な目標

### 研究課題 1

1 町 1 中学校において地域との効果的な連携はどうあるべきか

### 具体的な目標

- このえ緑陽中学校運営協議会の取組の推進
- 広報活動の推進



### 研究課題 2

小中学校が連携して取り組む「このえ学園」推進におけるコミュニティ・スクールはどうあるべきか

### 具体的な目標

- このえ小学校運営協議会の設置（このえ学園活動案の承認と支援活動・評価）
- 各小学校における学校運営会議の充実
- 公民館主事参加によるこのえ学・地域教材に係わる研究主任会の実施
- このえ学園基本計画における小小、小中、幼小、保護者・地域との連携の在り方についてこれまでの取組を踏まえ見直しを行う

### Ⅲ 調査研究計画

	【計画】	【成果目標】
平成29年度	<p>□ 1町1中学校における地域との効果的な連携はどうあるべきか (具体的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「町づくり協議会」と連携するために具体的な方策を探る</li> </ul> <p>○年2回熟議の開催と地域づくりにおける中学校の役割の確認</p> <p>○中学生の地域参加に関わる協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の担い手を育成するために4地区の公民館主事と連携し、中学生の具体的な参加方法を探る</li> </ul> <p>※運営案に対する学校運営協議会での評価と承認</p> <p>※アドバイザーによる評価と助言(年3回)</p>	<p>○地域づくりに根ざしたコミュニティ・スクール運営案の作成</p> <p>○町民への広報のためのパンフ作成</p>
		
平成30年度	<p>○コミュニティ・スクール運営案の研修と条件整備</p> <p>※学校運営協議会による評価</p> <p>※保護者、4地区町づくり協議会によるアンケート評価</p> <p>□小中学校が連携して取り組む「ここのえ学園」推進におけるコミュニティ・スクールはどうあるべきか (具体的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここのえ学園基本計画の見直し</li> <li>・ここのえ学園運営委員会、学校運営協議会においてここのえ学園コミュニティ・スクールについて検討する</li> </ul> <p>○校長会等による研修会とコミュニティ・スクール在り方検討</p> <p>○ここのえ学園評価委員会による熟議</p> <p>○学校運営協議会、ここのえ学園運営協議会による協議</p> <p>○アドバイザーによる評価と助言(年3回)</p>	<p>○研究報告書の作成</p> <p>○中学生の地域行事への参加計画の作成</p> <p>○ここのえ学園におけるコミュニティ・スクール運営案を作成</p>
		
平成31年度	<p>○ここのえ学園におけるコミュニティ・スクール運営案の実践と検証</p> <p>※ここのえ学園運営協議会による評価</p> <p>※保護者、4地区町づくり協議会・ここのえ学園運営協議会を対象にしたアンケート評価</p> <p>○アドバイザーによる評価と助言(年3回)</p>	<p>○研究報告書の作成</p> <p>○ここのえ学園運営協議会設置</p>

## IV 具体的な実践内容

### 研究課題 1

1 町 1 中学校において地域との効果的な連携はどうあるべきか

### 具体的目標

- このえ緑陽中学校運営協議会の取組の推進
- 広報活動の推進

#### 1 このえ緑陽中学校運営協議会の取組の推進

統合時に出された課題を解決するために、平成 28 年 5 月 1 日にコミュニティ・スクールを導入し、取組を進めてきた。令和元年度は内容の充実に取り組むと同時に保護者や地域住民に活動が見えにくいといった課題を解決するために、ケーブルテレビやフォトニュース（P24 資料集参照）、まとめの広報新聞の発行に取り組んだ。

##### （1）学校運営協議会の取組

令和元年度は次のような取組をおこなった。

- ①県大会壮行会（平成 28 年から継続）
- ②ふるさと大賞俳句大会（平成 28 年から継続）
- ③各地域イベントへの参画（平成 29 年から継続）
- ④地域美化活動の実施（平成 30 年度新規）
- ⑤地区防災士会との連携（平成 30 年新規）
- ⑥職場体験の地区別事業所リストの作成（令和元年度から本格実施）
- ⑦出身小学校でのあいさつ運動（令和元年度新規）

## ◎具体的な取組

### ①出身小学校でのあいさつ運動（令和元年度新規）

#### 令和元年 11 月 15 日（金） 出身小学校でのあいさつ運動の実施

【目的】 このえ緑陽中学校では生徒会が中心となって JASMIN 運動に取り組んでおり、とりわけ「あいさつ ATM」に力を入れている。生徒・保護者・教職員アンケートからも校内ではあいさつが活発に行えていることが見受けられ、来校者からの評価も高い。

学校運営協議会では生徒の「あいさつ力」をさらに高め、地域の中にもあいさつの輪を広げていくために、中学生が出身小学校に出向き、朝の「あいさつ運動」を実施することを計画した。この取り組みをこのえ学園の「あいさつ ATM 運動」として、町民と一体となった取り組みに広げていきたい。



参加生徒 全校生徒

### ②九重ふるさと祭りでのボランティア活動（平成 29 年から継続）

#### 令和元年 10 月 19 日（土）、20 日（日）ふるさと祭りへの参加

参加生徒 6 名

##### 【生徒の感想】

##### ◇参加しようと思った理由

- ・住んでいる町の地域行事に参加したいと思ったから
- ・九重町の役に立てると思ったから

##### ◇参加してみてよかったこと

- ・緑中での行事を地域の人に知ってもらうことができた
- ・いろいろな取り組みを説明することで、多くの方と話すことができた
- ・少しだけ見ている人が「これすごいね！」と声をかけてくれたことが嬉しかった

##### ◇参加した感想

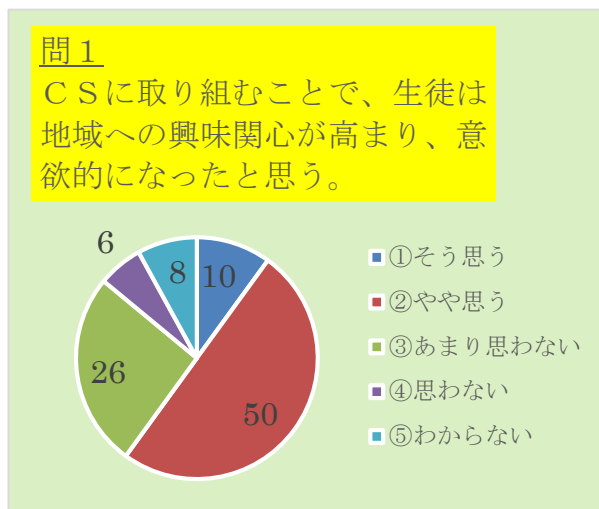
- ・ボランティアに積極的に参加することができて良かった
- ・楽しいことがいっぱいあって良かった。これからもボランティアに参加したい



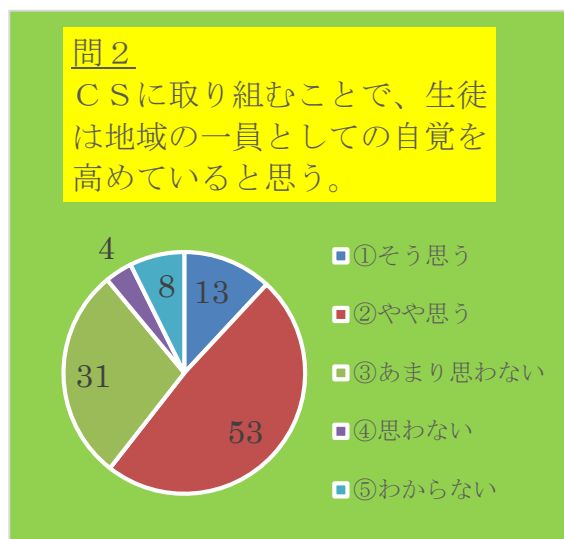
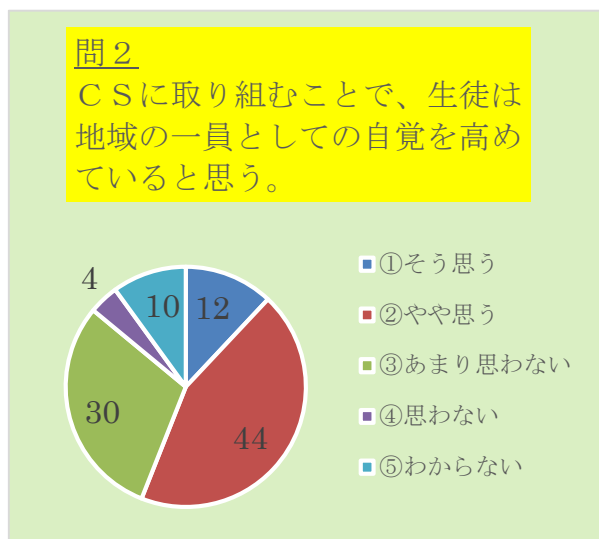
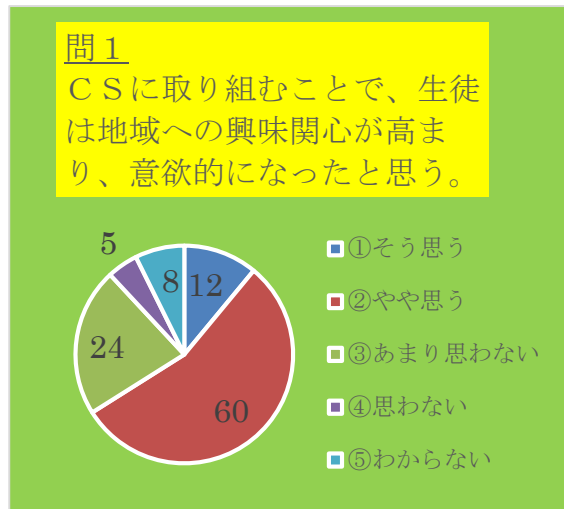
## 2 ここのえ緑陽中コミュニティ・スクールに関する意識調査

令和元年度の取り組みについて、保護者にアンケート調査を行った。昨年度との比較が次のようになった。【調査対象 ここのえ緑陽中学校 出校家庭 165 ○回答数 108 (65%)】

(平成30年度調査)



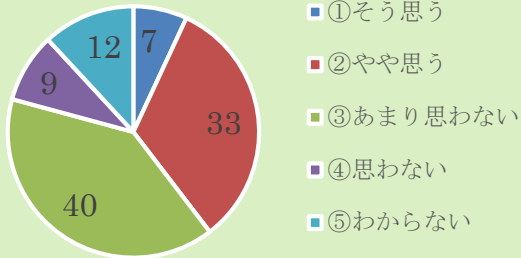
(令和元年度調査)





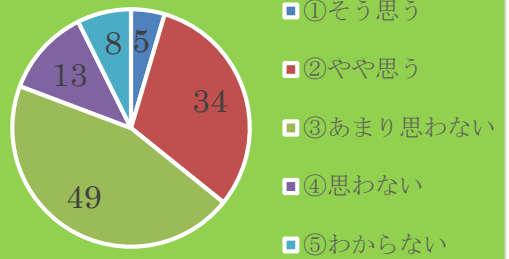
問3

CSに取り組むことで、保護者同士、(旧四)地区の連携が深まっていると思う。



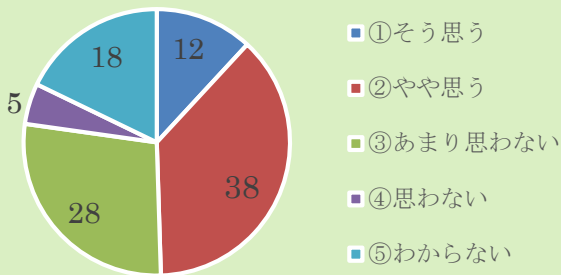
問3

CSに取り組むことで、保護者どうし、(旧四)地区の連携が深まっていると思う。



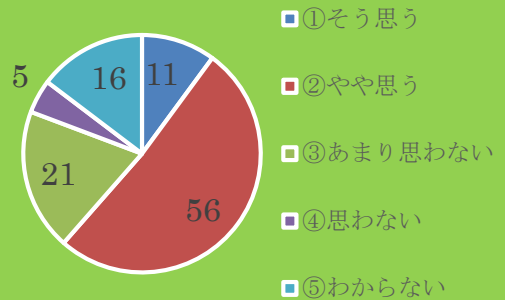
問4

CSに取り組むことで、学校への支援(協力)がしやすくなったと思う。



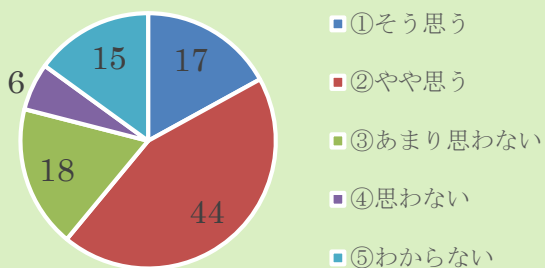
問5

CSに取り組むことで、学校への支援(協力)しやすくなったと思う。



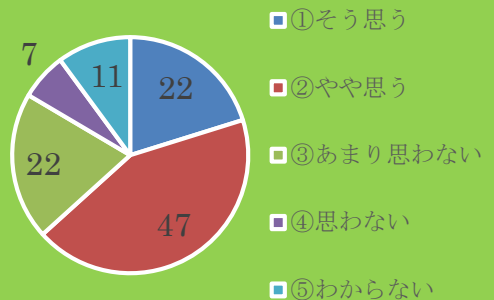
問5

CSに取り組むことで、地域と学校が一体となった学校づくりになっていると思う。



問5

CSに取り組むことで、地域と学校が一体となった学校づくりになっていると思う。



問	内 容	肯定的評価
1	CSに取り組むことで、生徒は地域への興味関心が高まり意欲的になったと思う。	60%
2	CSに取り組むことで、生徒は地域の一員としての自覚を高めていると思う。	56%
3	CSに取り組むことで、保護者どうし、(旧四)地区の連携が深まっていると思う。	40%
4	CSに取り組むことで、学校への支援(協力)がしやすくなったと思う。	50%
5	CSに取り組むことで、地域と学校が一体となった学校づくりになっていると思う。	63%

平成30年度 調査



問	内 容	肯定的評価
1	CSに取り組むことで、生徒は地域への興味関心が高まり意欲的になったと思う。	72%
2	CSに取り組むことで、生徒は地域の一員としての自覚を高めていると思う。	66%
3	CSに取り組むことで、保護者どうし、(旧四)地区の連携が深まっていると思う。	39%
4	CSに取り組むことで、学校への支援(協力)がしやすくなったと思う。	67%
5	CSに取り組むことで、地域と学校が一体となった学校づくりになっていると思う。	69%

令和元年度 調査

昨年度と比較して、「生徒は地域への興味関心が高まり意欲的になった」では12ポイント、「生徒は地域の一員としての自覚を高めている」では10ポイント、「生徒は地域の一員としての自覚を高めている」では17ポイント、「地域と学校が一体となった学校づくりになっている」では6ポイント高くなった。「保護者どうし、(旧四)地区の連携が深まっている」については、-1ポイントであった。わずかながらであるが、コミュニティ・スクールの取組が保護者に浸透していていると考えられる。意見としても高く評価している意見もあった。

一方、課題としては

- ・ 一部の方の取組に終わっているのではない
- ・ 保護者が、地域と関わりが持てていない
- ・ 保護者同士の関わりが少ない
- ・ 自主的に地域の行事やボランティア活動に参加できていない
- ・ 他地域との関わりが少ない

などの意見があった。

また、統合後は保護者同士の連携が一部の保護者では行えているが、それがPTAや部活動といった関係で終わっているといった課題も見えてきた。

これらのことから考えると、統合後にコミュニティ・スクールを導入することは学校と地域の連携を進めるうえでも重要なツールになると考えられる。その視点としては、生徒が地域で活動できる機会を増やすことが重要である。そのために、九重町ではこども園、小学校、公民館、まちづくり協議会等との連携を意図的に行ったことは有効であったと考えられる。

## 研究課題 2

小中学校が連携して取り組む「ここのえ学園」推進におけるコミュニティ・スクールはどうあるべきか

### 具体的目標

- ここのえ小学校運営協議会の設置（ここのえ学園活動案の承認と支援活動・評価）
- 各小学校における学校運営会議の充実
- 公民館主事参加によるここのえ学・地域教材に係わる研究主任会の実施
- ここのえ学園基本計画における小小、小中、幼小、保護者・地域との連携の在り方についてこれまでの取組を踏まえ見直しを行う
- 「ここのえ学園」における効果的なコミュニティ・スクールの導入を目指す

## 1 ここのえ小学校運営協議会の設置

平成 30 年度に作成した設置規則に基づいて、6 小学校合同で学校運営協議会を設置した。

運営協議会の合同設置については、初めての取組であるので教育委員や管理職や公民館主事を対象にした研修会と小中委員にまちづくり協議会からも代表を参加してもらい熟議を 2 回開催した。その中で課題の共有と次年度以降の活動について協議をおこなった。また、小中合同の協議会では「ここのえ学園基本計画」の承認と評価をしてもらい、取組の充実を図っている。

### （1）学校と地域の協働に係る教育委員・管理職等研修会

「社会に開かれた教育課程」を具体的にするために、コミュニティ・スクールの制度をどのように活用すべきか。また、ここのえ学園の取組を今後どのように展開すべきかについて理解を深めるために、教育委員や管理職、公民館主事を対象に研修を行った。

- |   |     |  |             |
|---|-----|--|-------------|
| 1 | 日 時 | 令和元年 9 月 27 日（金）   | 10:30～12:00 |
| 2 | 場 所 | 九重町役場  | 301 会議室     |
| 3 | 演 題 | 「社会に開かれた教育課程と地域との協働について」   |             |
| 4 | 講 師 | 熊谷慎之輔教授（岡山大学）  |             |
| 5 | 対象者 | ○学校長、九重学校支援センター所長<br>○教育委員<br>○公民館主事<br>○学校職員、社会教育関係者、学校運営協議会委員等の希望者 |             |

参加者からは、今後の取組を進める上で非常に参考になるといった意見が多かった。

(参加者の感想)

お話を聞きながら、「このえ学園」で取り組んでいること、目指す方向性は、まちがっていないということを実感しました。緑陽中で始めた、「話し合いのための共通のテーブルづくり」「共有の場の設定」による地域とのつながりは、いい方向に進んでいっていると思います。では、小学校ではどう取り組めばよいのか。幸い、小学校は地域密着で成り立っていますから、地域とのつながりは元々根付いています。それを今後どう発展させていけばよいのか。

鍵となるのは、公民館だと思います。飯田小学校は地区の公民館に一枚の小学校ですので、公民館事業もまちづくり協議会、青少年育成協議会等とも連携することができています。講演を聞いて、課題は、連携の質の向上だと確信しました。今は、連携といっても予算を出してくれたり、一緒に菜園を作ってくれたりといった活動が主となっています。目指す子ども像のアンケートは採りますが、その実現のための取組みは、学校のみで行うことがほとんどです。まずは、目指す子ども像を確認する場と、取組みを論議する場の設定が必要となると思います。そして、「地域が学校のために」のみでなく「学校が地域のために」という関係も築かねばなりません。その「場」の設定を公民館と学校で協働していく方向で考えてみたいと思いました。

中学生があてにされる存在となっている地域のお祭りの映像を見て、緑陽中のボランティア参加も、企画から参加させてもらえれば、あんな風にきっとできると思います。小学生も高学年ならできるのではないのでしょうか。

未来の図を具体的に描くことのできた講演でした。

社会の変化と地方創生を考えたとき、公民館はお年寄りの「趣味の講座」ばかりに力を入れるのではなく、これから町を担う「子どもの育ち」にもしっかりと力を入れなければならない意味がよく理解できたような気がします。学校・家庭・地域の連携協力は「漢方薬」という言葉が印象に残っています。

熊谷教授のお話は緑陽中がCSの中で今年進めてきた「職場体験」や11月に予定している「小学校でのあいさつ運動」の取り組みと深く関連しているので、公民館主事が一緒に学習できたことは大きな意味があると感じました。職場体験の候補事務所を各公民館でお願いして、リストアップしてもらったことや、東飯田公民館にあいさつ運動の要請に学校が足を運んだこと等、公民館職員が学校のCSのつなぎ役として動いていただいている具体例となっていることを感じ取っていただいたかな…と思いました。

また中学校CSとしては、12月のCS会議で町づくり協議会の代表や公民館主事を招いて、公民館祭り等での生徒のボランティア活動についての振り返り（反省）をする場を持っていますが、その意義も見いだせる研修内容だったと思いました。今後も自信を持ってCSに取り組んでいく勇気をいただいた講演会でした。

## (2) 小中学校運営協議会委員とまちづくり協議会代表の熟議（アドバイザー：兵教大 安藤准教授）

来年度からの取組を進めるために、兵庫教育大学の安藤准教授をアドバイザーに招いて、各学校の現状の課題と来年度の取り組みについて熟議を2回行った。

### ①第1回

期 日 令和元年9月18日（水） 19時00分～

場 所 九重町役場 3階 301会議室

内 容 令和2年度 このえ小学校運営協議会の推進について

参加者 ○このえ小学校運営協議会 全員（20名）

○このえ緑陽中学校運営協議会 代表委員（4名）

（会長、副会長、保護者代表、校長、事務局担当者1～2名）

○まちづくり協議会代表者各地区2名（8名）

#### ◇会議の内容

○熟議にむけて（兵庫教育大学 安藤准教授：アドバイザー）

○熟議（地域ごとに分かれて）

○まとめ（兵庫教育大学 安藤准教授：アドバイザー）

#### 熟議（グループ協議）のまとめ

（東飯田地区）

- ・まだ、CSについて地域・保護者全体の理解が進んでいないため、課題もはっきりしないし、取組が決められない。
- ・小学生の活動時間に合わせた取組に限られる。・先生の負担軽減がされているか。

（野上地区）

- ・学校と地域との関わり（学校の敷居が高い、地域への参加の求め方、地域を知らない、保護者への広報、ゲストティーチャーを招く支援、老人会との連携） ・子どもたちが地域行事に参加したときの保険
- ・災害時の小中・こども園の連携 ・地域行事への若者の参画

#### ○課題解決方法

- ・コーディネーターの配置（公民館職員の活用） ・ケーブルテレビの活用
- ・小中連携したあいさつ運動や防災訓練の実施

#### ○町全体で取り組んだ方がよいこと

- ・イベント等の情報提供 ・あいさつ運動の実施（中学生が小学校へ）、あいさつ日本一の町に
- ・九重町防災の日の取組、小中こども園が連携した訓練の実施、中学生がスタッフとして訓練に参加
- ・子どもを地域で育てるために「ほめる・しかる」取組

（飯田地区）

- ・防災（引き渡し訓練）訓練が難しい。 ・中学校のあいさつ運動の小学校への広まり ・中学校の職場体験の取組

#### ○課題解決方法

- ・防災訓練を保幼小中で合同実施 ・小学校でのあいさつ運動の実施 ・いじめゼロ運動の実施

#### ○町全体で取り組んだ方がよいこと

- ・保幼小中で合同引き渡し訓練の実施 ・あいさつ運動（中学生が小学校へ、地域の方の参加）の実施
- ・いじめゼロ運動（ピンクシャツデー・スマイルデー）の実施

（南山田地区）

- ・防災訓練が学校内だけで終わっている。中学校の引き渡し訓練が難しい。防災士との連携
- ・こども園と地域の連携が難しい。 ・あいさつが校内と地域では差がある ・公民館活動が両校で差が出てしまう。

#### ○課題解決方法

- ・あいさつ、家庭学習、授業の持ち物など中学校を中心に統一する。・引き渡し訓練は4地区ごとに計画的に行う。
- ・中学校はCSの地区役員を置く。
- ・地区の行事は大切に継続していく。イベント以外の取組をして利用者を増やす。

#### ○町全体で取り組んだ方がよいこと

- ・お互いの地区の取組を見に行き、他の地域も取り入れられるような取組
- ・スキー教室は中学校でも行ってみてはどうか。

## ②第2回

期 日 令和元年11月27日(水) 19時00分～  
場 所 九重町役場 3階 301会議室  
内 容 来年度の活動について  
参加者 ○ここのえ小学校運営協議会 全員(20名)  
○ここのえ緑陽中学校運営協議会 代表委員(4名)  
(会長、副会長、保護者代表、校長、事務局担当者1～2名)  
○まちづくり協議会代表者各地区2名(8名)

### ◇会議の内容 (グループに分かれて熟議)

- 防災に関わる内容でどんなことに取り組んだらよいか話をする。
- その取組を行うためにどのようにすればよいか。また課題は何か。
- 各グループから報告

### 意見のまとめ

- 防災教育における地域と学校の連携の深まりに差がある。
- 大規模災害を想定した小中・こども園の連携した訓練が必要である。
- 各学校の防災教育について地域人材を活用し充実させる。
- 小小、小中、小中・こども園と地域が連携した防災訓練(引き渡し訓練等)の実施を目指し取組を進めていく。

2回の熟議であったが、1回目に安藤先生から熟議の意義や進め方などのアドバイスをいただき、4地区ごとに熟議を行った。

1回目で出された課題として、防災については、学校ごとに訓練も含めて行っているが、地域との連携が行えていない。また、こども園や中学校も連携して訓練を行わないと、実効性がないのではないかとといった課題も出された。安藤先生からも「まず、課題解決のためになってみるのが大切である」といったアドバイスをいただいた。

そこで、2回目についてはテーマを絞って防災について熟議を行った。その結果、「学校ごとの防災教育を地域と連携しより深めていくこと」と「こども園・小中が連携した防災訓練の実施すること」が重要であるといった内容でまとまった。

この2回の熟議で出された内容をメインテーマとして運営協議会の取組を行っていくことが確認できたことは有意義であった。

### (3)「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム 鹿児島会場への参加

本研究を推進するにあたって、教育委員会、学校担当者の役割は大きい。コミュニティ・スクールに関する理解や先進地の事例を考慮しながら、九重町の実態にあったコミュニティ・スクールをつくっていく必要がある。今年度は、同じ九州内の取組を学ぶために教育委員会事務局と中学校の担当者の2名が参加した。

#### (参加者の報告書より)

令和元年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム in 鹿児島に参加して

1. 期 日：令和元年10月30日（水）
2. 用務地：鹿児島県文化センター（鹿児島市）
3. 研修者：九重町立ここのえ緑陽中学校 担当者
4. 研修内容および所感

#### (第1 スパン)

文科省のコミュニティスクール（以下：CS）担当者から、CSと地域学校協働活動の一体的推進について、教育をめぐる現状と課題を5つの観点【①社会の状況（超スマート社会等の技術革新、人口減、高齢化）②家庭の状況（子どもの貧困、共働き世帯）、③地域の現状（社会への貢献意識）、④学校の状況（教師の役割）、⑤社会に開かれた教育課程）】で具体的に説明してくれたのが、これから国が進めていく政策の流れや意図が明確となり大変参考になった。

#### (第2 スパン)

パネルディスカッションにおいて、CSと地域学校協働活動の違いについて、具体を提示しながら説明してくれたことで制度上の違いがあっても、学校教育・社会教育の連携・協力の必要性を強く感じた。

また、2つの実践発表では、

- ①鹿児島県川内市の義務教育学校の取組は、小中一貫教育の中で系統的に地域からは人材資源の活用を、学校からは地域貢献というものだった。特徴的にCSの中に地域学校協働活動を組み込んでおり、学校教育・社会教育の連携が見られるものだった。
- ②東京都三鷹市の取組は、近隣の複数の小学校・中学校で1つの学園として連携し、地域とつながるタイプのCSであった。特徴的なこととして、事務局が学校ではなくサポートネットという市が委託した法人にあるところである。今、強く謳われている働き方改革の観点からも理に適っているものだと思う。

#### (まとめ)

来年度から九重町で動き始める「ここのえ学園」CSが東京都三鷹市をモデルとして動き始めるとスムーズな運営が行われると強く思った。

#### (4) 6 小学校合同で学校運営協議会

2 回の熟議を中心に令和 2 年度のここのえ小学校運営協議会の運営方針をまとめ、小中合同運営協議会で確認と承認を行った。

##### ここのえ小学校運営協議会の運営について（方針及び活動計画）

#### 1 目的

学校運営に参画し、地域の住民及び保護者等が連携し学校運営への支援・協力を促進する。具体的には次の 3 点とする。

- (1) こども園・小学校・中学校・社会教育を中心に保護者・地域住民・各種団体が連携したコミュニティを創造すること。
- (2) 自己実現のための確かな資質を持ち、ふるさと九重町を大切に作る心を持った子どもを育成すること。
- (3) 地域住民等と学校相互の理解を深め、信頼される学校を構築すること。

#### 2 役割

次の 4 点を主な役割とする。

- (1) ここのえ学園基本計画に関する基本的な方針の承認と評価を行う。
- (2) ここのえ学園基本計画に関して教育委員会等への意見の申し出を行う。
- (3) 九重の小学校や地域の課題を解決するための協議や熟議を行う。
- (4) 課題解決のために学校を支援したり、地域や家庭に要請を行ったりする。
- (5) 学校間の情報共有の場とする。

#### 3 委員構成と組織

○委員については、九重町学校運営協議会規則に則り教育委員会から任命されたもので構成する。

○委員全員で構成する全体会と会長・副会長及び庶務を担当する学校長で組織する役員会を置く。

#### 4 各種会議の内容

- ・全体会（年 4 回）・・・（5 月）ここのえ学園実施（案）の承認、協議会の取組の協議
  - （2 月）ここのえ学園の取組の評価、協議会の取組の反省と次年度に向けて
  - （9 月）取組の中間総括
  - （11 月）次年度に向けて
- ・役員会（年 5 回程度）・・・会長、副会長と庶務を担当者する学校長で実施。全体会の前（4 回）と必要に応じて開催



## 5 令和2年度 取組内容

(テーマ)

ここのえ学園の充実を目指した防災学習を推進しよう

(テーマ設定の理由)

ここのえ学園基本計画の取組の1つとして「ここのえ学」に取り組んできた。特に小学校の1つの柱として「防災教育」に取り組んでいる。また、各学校で学校安全計画を立てて取組を行っている。中でも災害を想定した児童の安全な引き渡し等について保護者や地域と連携しながら実施している。

しかし、小中学校運営協議会委員とまちづくり協議会代表で熟議を行う中で、防災教育における地域と学校の連携の深まりに差があることや、大規模災害を想定した小中・こども園の連携した訓練の必要性が課題として出された。各学校の防災教育について地域人材を活用し充実させること、小中、小中、小中・こども園と地域が連携した防災訓練（引き渡し訓練等）の実施を目指し取組を進めていくことを目指し、本テーマを設定した。

### (1) 取組の柱

#### ① 学校における防災教育の充実

現在、防災教育においては学校において取組を進めているが、より充実した内容にするために防災マップづくり、各地区の防災士や公民館と連携して行うことが大切である。従って、町内の先進校の取組を参考にしながら、学校ごとに地域連携を進めていくものとする。

#### ② 小中・こども園が連携した防災訓練の実施

大規模災害に備えた防災訓練の実施は不可欠である。特に引き渡し訓練などは関係施設が連携して行わないと実効性のないものになってしまう恐れがある。しかし、連携した訓練を実施するためには、大規模な訓練になるため関係機関の調整も必要になる。従って令和2年度は訓練実施に向けて、実施方法の協議を中心に行っていくものとする。

### (2) 年間計画

月	防災に関わる取組	運営協議会に関わる取組
4月	○学校安全計画見直し（学校）	
5月	○第1回学校運営会議（学校ごと） ・学校教育目標の確認（防災に関わる内容も含む） ○役員会（第1回） ※ここのえ緑陽中学校運営協議会 ○第1回ここのえ小学校運営協議会 ・会長、副会長の決定 ・年間計画（防災の取組）等の承認 ・前期取組内容の確認	○第1回小中合同協議会 ・ここのえ学園実施案の承認 ・小中取組内容の共有
6月		

7月		
8月	○第2回学校運営会議 ・学力向上プラン、4点セット等	
9月	○役員会（第2回） ○第2回ここのえ小学校運営協議会 ・学校ごとの取組の共有 ・中間評価 ・防災訓練に向けて	
10月		
11月	○役員会（第3回） ○第3回ここのえ小学校運営協議会 ・学校ごとの取組の共有 ・防災訓練に向けて ・次年度に向けて	
12月		
1月		
2月	○第3回学校運営会議 ・次年度学力向上プラン、4点セット等 ○役員会（第4回） ○第4回ここのえ小学校運営協議会 ・学校ごとの取組の共有 ・中間評価 ・後期取組内容の確認等	○第2回小中合同協議会 ・ここのえ学園の評価 ・小中取組の反省と次年度に向けて
3月	○役員会（第5回）	

## 6 運営上の留意点

- (1) 持続する運営を目指すため、公民館やまちづくり協議会などの組織を積極的に活用する。
- (2) 取組においては、学校・家庭・地域の役割を確認した上で連携を進める。但し、三者にとって過度な負担となるような取組は行わない。

## 2 各小学校における学校運営会議の充実

小学校の学校運営協議会については、このえ学園運営協議会を設置するまでの間の移行期間として、6小学校で合同設置を行った。そこで、各学校での連携を深めるために、これまで各種会議（学校評価委員会、学力向上会議等）を統合した学校運営会議を設置していくことにした。本会議では、学校独自の課題や学校目標の共有や評価・支援などを行い、学校と地域が一体となった取組が出来ることをねらいとしている。（学校運営方針の承認機能は有していない。）

### アンケートのご協力に感謝します。

- 具体的なお姿としては、
- 一、我が子にどんな姿を願うか
    - ①心優しい思いやりのある子
    - ②元気で健康な子
    - ③友だちを大切にする子
  - 二、我が子にどんな力をつけたいか
    - ①コミュニケーション能力
    - ②人との適切な接し方
    - ③知的な好奇心
  - 三、東飯田小学校に望む姿
    - ①明るく楽しい学校
    - ②安心安全な学校
    - ③対応の早い学校

- 一、我が子にどんな姿を願うか。
  - 二、我が子にどんな力をつけたいか。
  - 三、東飯田小学校に望む姿は何か。
- 一月より、全出校家庭に「宝つこに願う姿」と題して、アンケート調査を行いました。アンケート内容は次の三項目でした。

#### 熟議開催予定

学校新聞  
東飯田小

# 東風

文 責  
校長  
池部長孝  
No33



上記の宝つこに願う姿を集約させていただきました。このアンケート集約を基に熟議を二回開催します。

.....

**第一回熟議(二月五日)**では、この具体的な姿をより明確にします。例えば心優しい思いやりのある子とは、どんな様子であるのか？と言うことを話し合い、共に理解を深めます。

.....

**第二回熟議(二月二十六日)**では、そのような子どもたちに育てていくために、保護者・地域・学校がどのようなことをしていけばよいか話し合います。

.....

#### 昨年度熟議の熱心な討議

熟議のメンバーは学校運営会議の委員とPTA常任委員です。この熟議の内容が来年度の東飯田小学校教育目標に反映されます。また、保護者・地域の取組み指標にも大きく関わってきますので、万障繰り合わせの上、ご出席をよろしくお願い致します。すでに、ご案内が届いているかと思えます。ご確認ください。

#### がんばろう なわとび大会

二月二十五日(火)なわとび大会があります。現在、体育の授業や集会でのたてわり班活動で猛練習中です。一年生もがんばって大縄をとび練習に励んでいます。

そこには、六年生を中心とした上級生の心温まる姿があります。卒業を前にした六年生の温かな姿は、きっと下級生の心に残っていくことでしょう。三学期最後の全校的な取組へ向けて熱を帯びてきました。これからの一日一日が、とても大切な時期となってきました。日々大事にしていまいるでしょう。





## 第1回熱議終了。熱心な討議に感謝！

多くの支えを感じます。

二月五日（水）今年度第一回目の熱議を開催しました。保護者・地域の参加の下、熱心な討議がなされました。また、その中で貴重な意見も数多く頂き、第二回目の熱議へ向けて討議の柱作りを進めています。

熱議の中で感じたことは、参加者の考えや思いがとても温かく、前向きな意見が多かったということです。子どもたちの確かな成長や東飯田小学校のしっかりとした教育活動を願う思いが伝わってきました。たくさんの方々に支えられながら、東飯田小学校の教育活動が成り立っていると感ずいています。あらためて多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。次第で上げていきます。ありがとうございます。さて、第二回熱議は二月二十六日



（水）です。第二回熱議では、保護者・地域の姿に近づいていくために、いったいどんなことができるのか？具体的な取組について話し合います。熱議メンバーのみならず、資料を近日中に配布致しますので、あらかじめ考えをまとめておいていただけると熱議がスムーズに進行します。準備をお願いします。



### 汎用力の成果現る

「一月は行く。二月は逃げる。三月は去る。」とよく申します。年度末の慌ただしさを的確に表した言葉だと思えます。東飯田小学校でも、当該学年のまとめをすべく、日々の授業で追い込みにはいっています。

日々の授業では、今年度意識的に「汎用力」アップ（汎用タイムの活用）に取組みました。汎用力向上の自身は、タブレット・思考ツール・作文力としました。この三つを柱として基礎基本の力をつけていきました。中でも作文力は、昨年度九重町学力調査から見ると、

しっかりと伸びています。来年度も継続しつつ学力の定着を図ります。タブレット端末は全学年で授業の活用できています。ICT機器を使うことで、子どもたちの興味がわき、学習内容の理解をすすめる上で役立っています。思考ツールも総合的な学習を中心に、有効的に活用されはじめています。



### みんなの力で！

学級活動、さらには学級育宝会活動でもまとめの段階に入っています。学級育宝会活動は、学級会長さんを中心に学年に応じたまとめが進んでいます。二分の一成人式（四年生）、卒業へ向けての親子での取組など、周到な準備が行われているようです。一部の方の負担になることなく、みんなの力で作り上げていくと実りある活動になってくると思っています。

### 第二回熱議

二月二十六日（水） 一九時  
理科室&図書館  
ご出席、よろしくお願い致します。

町内小学校の熱議の通信より 2

少しずつであるが、各校熱議が定着している。内容としては学校教育目標等の共有と評価が中心で、地域と協働した取組や学校支援についてはまだ不十分な点も多い。今度、内容について充実するように教育委員会が学校を支援していく必要がある。

### 3 公民館主事参加によるこのえ学・地域教材に係わる研究主任会の実施

本取組については、昨年度作成した教材一覧を活用する取組であった。学校については、校区を中心として連携を推進している。

特に職場体験活動を中学校3年生で行っているが、「このえ学」の観点からすべて町内の事業所で実施するようにした（これまでは、隣接する町の職場でも体験活動を実施）。しかし、中学校の職員だけでは、新規に事業所を見つけたり、依頼することに時間を要したりすることから、公民館を中心に地区別事業所リストの作成の協力を依頼した。その結果、全体として77の事業所になり、依頼もスムーズに行え、充実した職場体験を実施することができた。

課題としては、研究主任会で協議することで、各学校の地域教材が町内全体で利用できるようなシステム化をねらいとしていたが、新学習指導要領の実施に向けて各学校で教育課程に見直し作業と重なり、来年度に向けて、地域教材の見直しが必要となったため、協議が進められなかった。したがって、もう一度、地域教材の見直しが必要である。

#### 4 ここのえ学園基本計画における小小、小中、幼小、保護者・地域との連携の在り方

今年度もここのえ学園基本計画の取組に関するアンケート調査を行った。結果はこれまでと同じような結果であり、つぎのような総括を行っている。

##### 【6年生集合学習】

- H30年度とR1年度の傾向は概ね同傾向にある。
- 子どもたちは、集合学習での大人数による活動を楽しめているようだ。  
昨年度に比べさらに満足度が上がっている。(85%⇒91%)
- 担当者会で確認し分担したことが活動に生かされている。
- 外国語の授業は、中学校の教科担当者、体育は体育専科教員がそれぞれ指導にあたった。教科の専門性を生かした授業を受けたことや中学校をイメージする上で意義があった。
- 日常の授業の中でも、グループ活動や話し合い活動の機会は増えてきており、積極的に関わり自分の考えをしっかりと言える子どもが増えてきた。しかし、苦手意識等で消極的になってしまう子どももいる。
- 集合学習での活動は楽しめているようだが、それがそのまま中学校生活に対する不安解消につながっているとは言えない。
- 子ども同士の関わり方や活動の工夫改善が今後も必要である。

##### 【小学校同士の連携】

令和2年度からに向けて、タブレットを活用した連携を一部の小学校で実施した。内容は次のようなものである。

##### 4年生社会科 飯田小学校と野矢小学校との交流

単元名 「住みよいくらしをつくる」

##### ◇社会見学の合同実施に向けて

1学期に各学校で自分たちの住んでいる地域のごみのしまつと活用、命とくらしをささえる水について学習した。夏休みに2校で打ち合わせを行い、社会見学の行程のことや学習の終末について話しあった。

2学期に入り、Zoom(会議アプリ)を利用し、野矢小学校の4年生との顔合わせを行った。顔合わせでは、社会見学を一緒に行くにあたり、自己紹介を中心にし、学校の紹介等を行った。その後、社会見学を実施した。

社会見学後は、それぞれの学校で見学した内容について新聞を作成し、その新聞を互いに見合い感想の交流を行った。

#### ◇成果と課題

##### ○Zoom の活用

Zoom では、学校に訪問しなくても簡単な顔合わせや話し合いができるのでとても便利だった。顔合わせだけでなく事前の学習を共にすると学校同士の連携が更に深まった。また、子どもたちも見学の時の交流がスムーズにできたのではないかと思う。

##### ○他校との見学について

見学では、普段自分の学校でしか交流しないが、他学校の児童と行くことで他の学校の様子や自分たちの学校と違うところなどを実感できた。また、その実感は交流が深まれば更に高まるのではないかと思う。4年生は二分の一成人式も控えているので自分の成長という点でも見つめ直す良いきっかけになったと感じる。

##### ○事後の新聞づくり

社会見学の事後として、各学校で新聞をつくり送り合った。他校の児童が見ることもあり、子どもたちは意欲をもって新聞づくりに取り組んだ。また、わかりやすいレイアウトや内容を考える姿があった。今回は、事後での学習と一緒に活動することはなかったが、事後も継続的に実施するとより学習も深まる。

#### ◇他の小学校との交流をおえて（指導者の感想）

今回、小学校と連携して小規模の学校が交流することは、大変よい経験になると感じた。社会科での交流を行ったが、総合などで自分たちの暮らす地域のことを調べ、そのことを伝え合うような活動を取り入れることも自分たちの知らない九重を知るきっかけになりそうである。

このえ学園基本計画の集合学習は、5・6年生で実施しているが、これまで評価委員会で他学年で実施してはどうかといった意見が出されていた。九重町においては、学校間の距離が遠いことと交通手段の問題から、1～4年生の実施に課題があった。しかし、今回の取組から、タブレットを活用した方法が有効であると感じた。

そこで次年度以降に ICT を活用した小学校同士の交流について、研究を深め交流を促進していきたい。

## V 実践研究のまとめ

### (1) ここのえ学園運営協議会の設置に向けて

今年度は、ここのえ小学校運営協議会を設置し、中学校の合同会議等を実施し、令和2年度取組についても確認できた。今後は「ここのえ学園運営協議会」の設置にむけて取組を推進していきたい。

そのためには、それぞれの組織間の連携や取組内容の充実が必要である。また、地域住民との協働をより進めていく必要がある。その架け橋となる学校と公民館との連携をこれまで以上に進めて行かなければならない。

以上のことを踏まえ、ここのえ学園運営協議会の設置に向けて今後も取組を進めて行くことにした。

#### ①ここのえ学園運営協議会設置に向けて

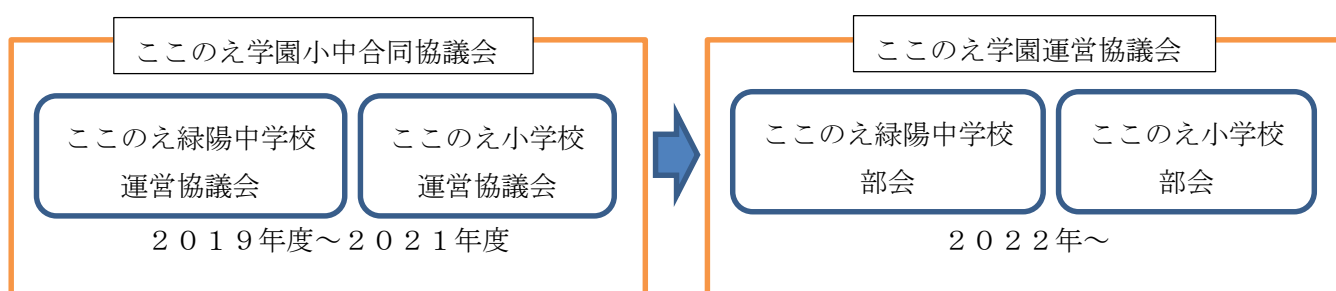
設置に向けて次のような方針を立てながら推進していくことにする。

- 2022年を目途にここのえ学園運営協議会に統合し、ここのえ学園運営協議会中学部と小学部を設置し、合同での取組が難しい取組はそれぞれの部会で取り組む。

平成31年度から当分の間は、ここのえ小学校運営協議会を設置し、ここのえ緑陽中学校運営協議会と合同会議を開催する。この会は現在あるここのえ学園運営委員会とここのえ学園評価委員会を統合した会とする。

#### \*会の名称

ここのえ学園小中合同会議・・・小中合同会議 → 2022年からここのえ学園運営協議会に統合  
ここのえ小学校運営協議会・・・6小学校から組織  
ここのえ緑陽中学校運営協議会・・・中学校の学校運営協議会



#### ○ ここのえ学園小中合同協議会

ここのえ緑陽中学校運営協議会とここのえ小学校運営協議会の合同会議で、現在あるここのえ学園運営委員会とここのえ学園評価委員会を統合したものにする。

a ここのえ学園小中合同協議会委員

- ここのえ小学校運営協議会委員（20名）

各校の保護者代表各1名（6名）、社会教育関係者1名、こども園代表2名（各園より1名）、各種団体2名、学校長・支援センター所長7名、園長1名、学識経験者1名 計20名

- ここのえ緑陽中学校運営協議会委員（代表者会議の場合は、会長、副会長、保護者代表、校長が参加する。）



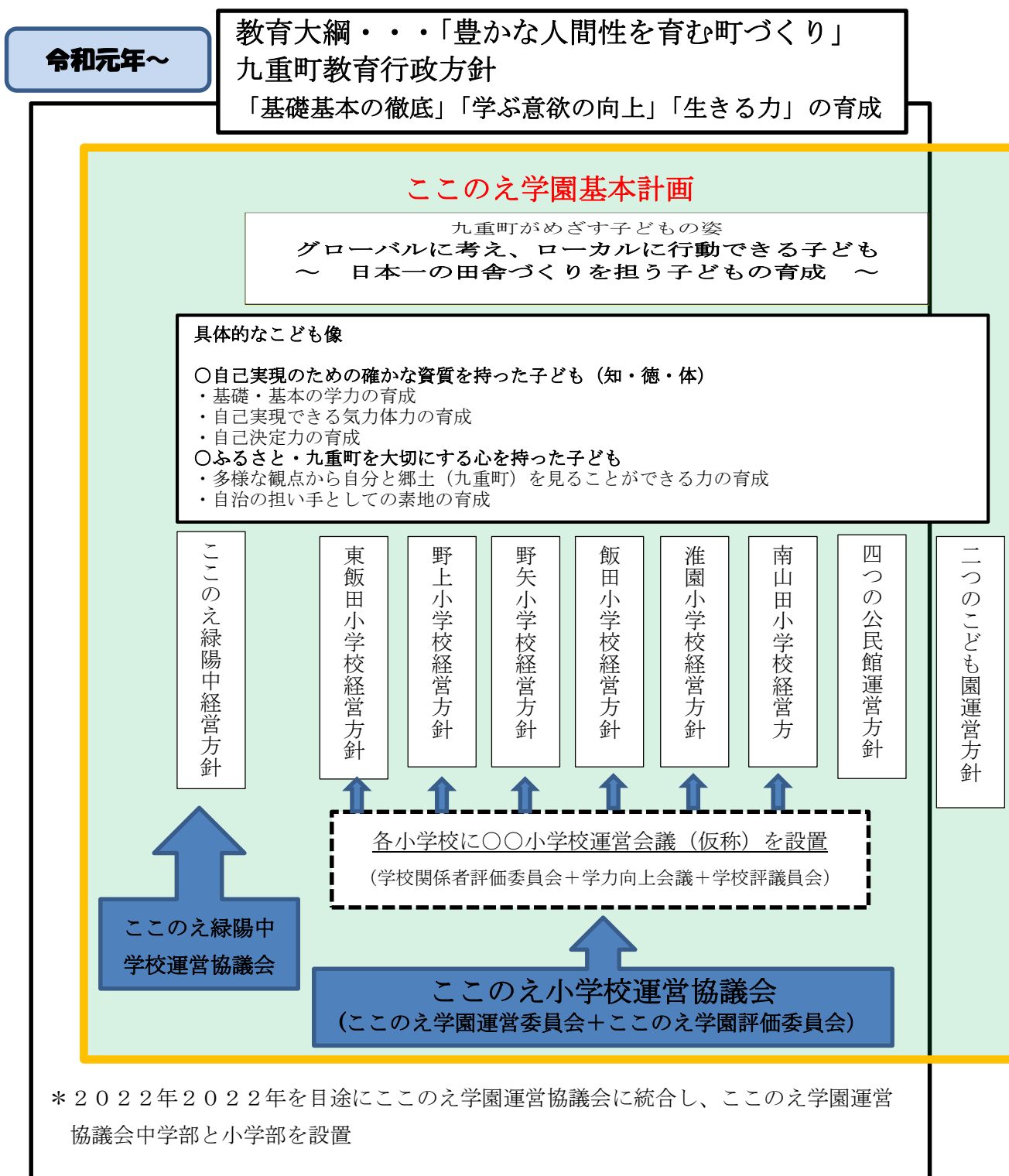
○教育委員会事務局（教育振興課・社会教育課）の若干名

b 役割

ここのえ学園基本計画に関わる実施案等の承認と取組の評価と支援を行う。

c 当面の間、予算の計画や執行は教育振興課が行う。

## ②ここのえ学園運営協議会イメージ図



# 資料集

# ここのえ学園フォトニュース

発行：「ここのえ学園」運営委員会事務局  
発行日：令和元年5月20日 第2号

6年社会見学・緑陽祭号

## 6年社会見学～吉野ヶ里遺跡へ

東飯田小、野上小、淮園小、南山田小、飯田小、野矢小の6年生 5月9日(木)実施



出発式 九重文化センターにて



物見やぐらにも登りました



まが玉作り



5月9日(木)ここのえ学園6年生69名が佐賀県吉野ヶ里遺跡へ社会見学へ行ってきました。縄文時代から弥生時代へと時代が変わった集落での生活の様子や物見やぐらなどの遺跡をまじかに見学できました。説明に真剣に聞きメモを取る姿もありました。作ったまが玉は思い出になりますね。現地では天気も良く、6年生同士の交流もできたようです。

向こうに見える高床倉庫や屋根が古代の雰囲気！



## ここのえ緑陽中学校 第6回

# 緑陽祭(開校記念祭)開催



5月9日(木)13:00より九重文化ホールにて第6回緑陽祭が行われました。校歌斉唱、生徒会長あいさつ、校長あいさつ、記念講演(佐藤智之先生・今村智彦先生)、吹奏楽部演奏、クラス目標発表、俳句大会表彰等行われました。7年目の緑陽中が今年も生徒・先生方・保護者の方々の力で前進・成長していくことを期待します。





# ここのえ学園フォトニュース

発行：「ここのえ学園」運営委員会事務局

発行日：令和元年6月7日 第3号

九重町教職員研修報告

九重町コミュニティスクール報告

## 教職員も様々な研修を行なっています！

### 「九重町教職員全員研修」令和元年5月22日(水)16:00～

九重町の全教職員約100名が集まり、「ここのえ学園」についての研修を行いました。

濱田教育長から、これまでの「ここのえ学園」の推進や、「ふるさとを愛するこども」を育てていくことなど話されました。その後、昨年度の「ここのえ学園」の取り組みの成果や課題について議論しました。「各校が集まって学習することや中学校入学後に成果が表れていること」。つながり学習で「小学校入学後のギャップが少なくなっていること」などが報告されました。(写真は昨年度のものです)



### 「ここのえ緑陽中学校運営協議会・ ここのえ小学校運営協議会合同会議」

5月22日(水)19:00～

ここのえ緑陽中学校はコミュニティスクール(CS)を導入して4年目になります。そして、今年度より九重町の6小学校が合同でCSを導入することとなりました。6校合同でどんなことを取り組んでいくのかを今年1年かけて協議していくこととなります。この日は人材バンクの作成・活用方法について、4地区の町づくり協議会との連携、ケーブルテレビなどを利用した情報発信、フォトニュースをこども園や公民館に掲示するなどの意見が出されました。



### 九重町ウェルカム研修5月27日(月)15:00～

今年度初めて九重町に来られた教職員と九重町役場の新採用者合計22名に、副町長から「九重の町づくり」、また部落差別解消をめざして「九重町の人権同和問題について」「結婚差別について」の研修を行いました。これから九重町の行政・教育を担っていく人材へと育ててほしいと思っています。





# このえ学園フォトニュース

発行：「このえ学園」運営委員会事務局  
発行日：令和元年6月24日 第6号

6年集合学習 つながり学習 号

## 町内6小学校の6年生が合同で授業を行いました！ 第1回、2回、3回 6年生集合学習

第1回を6月6日(木)、第2回を13日(木)、第3回を20日(木)に緑陽中学校で実施しました。今後、4回目を行い、11月には合同修学旅行を実施します。各学校の良いところを発揮し、素晴らしい学年をつくってほしいです。開校式では緑陽中 日隈哲憲校長、教育委員会 湯浅優参事、生徒会長 佐藤佑真さんのあいさつと、指導の先生方の紹介がありました。

今年度は准園小 酒井静女先生と緑陽中 由迫淳子先生が、体育と外国語活動の授業を行います。経験を積み重ね、中学校へのつながりもスムーズにできるようになるとよいですね。



外国語活動では ALT スティーブン先生と由迫先生の会話を聞き、6年生も隣同士で会話を行いました。

体育では、バレーボールを行いました。みんなで協力ができるようにルールを特別に決めています。

## つながり学習(みつばこども園+5年生 東飯田小・野上小・濠園小・野矢小・南山田小)



始まりの会のあと、学校ごとにグループをつくり、5年生と園児で交流をしました。来年度最上級生になる5年生と新1年生と触れ合っていることで入学後の生活がスムーズにでき、お互い早く慣れることが目的です。飯田小と飯田こども園は、別日に交流を行っています。



# このえ学園フォトニュース

発行：「このえ学園」運営委員会事務局  
 発行日：令和元年10月25日 第12号  
 5年社会見学 郡駅伝大会

## このえ学園 集合学習

# 5年生が社会見学を実施しました。



10/3 緑陽中で事前学習（集合学習）も行いました。

10月18日（金）町内6小学校の5年生72名が、ダイハツ九州大分工場（中津市）と大分合同新聞印刷センター（大分市）へ社会見学に行きました。  
 事前の2回の集合学習で、事前学習と5年生同士の交流も行ってました。楽しく学べた一日になりました。



## 郡中学校駅伝競走大会が実施されました。

（10月10日（木）くす河川敷コースにて）



男子は緑陽中3チーム、  
 星翔中5チーム。  
 女子は緑陽中3チーム、  
 星翔中4チーム。  
 男子6区間、女子5区間で健  
 脚を競いました。





# このえ学園フォトニュース

発行：「このえ学園」運営委員会事務局  
 発行日：令和元年11月21日 第13号  
 あいさつ運動 緑中台湾交流

## 緑陽中生が母校であいさつ運動



11月15日(金)緑陽中生が母校の小学校であいさつ運動を行いました。小学生に成長した姿を見せました！

### 国際交流が進んでいます！

たいわん だいわん

## 台湾大灣国民中学校・

ほうざん

## 鳳山中学校から生徒が来校

10月28日、教育旅行で来日した台湾高雄市の中学生16名が緑陽中を訪れ、中学2年生と交流をしました。身振り手振りを交え主に英語で話し、家庭科(調理実習)や体育の授業を一緒に受けました。12月8日から緑陽中の生徒代表が台湾の中学校を訪問予定です。





# このえ学園フォトニュース

発行：「このえ学園」運営委員会事務局  
発行日：令和元年11月29日 第14号  
6年生、中2年生修学旅行

## このえ学園 町内6年生が合同修学旅行へ



11月8、9日、町内6小学校の6年生が合同で長崎方面への修学旅行を行いました。  
来年4月から緑陽中学校と一緒に学ぶ同級生になります。見学と合わせ、小学校間の交流もできました！



## 緑陽中2年生修学旅行へ

10月1～4日、修学旅行で緑陽中2年生が広島、京都、大阪方面を訪れました。思い出に残る多くの見学・体験をしたことでしょう。

